

園芸タイムリー情報

《6月上・中旬版》

令和3年 6月3日発行 第2号
 上川農業改良普及センター
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

- 平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並～高い見込みです。
- ①日々の気温の変動が大きくなる時期なので、生育ステージに応じたハウスの温度管理・水管理を徹底しましょう。
 - ②湿度の高まりは病害発生要因となるので、ハウス内のモヤ抜き換気を行いましょう。
 - ③アブラムシ類・ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い、適期防除に努めるとともに、ほ場周辺の雑草除去など、ほ場の衛生管理を徹底しましょう。
 - ④ほ場は、透排水性の改善に努め、高畝栽培等の湿害対策を励行しましょう。


※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
葉かび病・すすかび病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期	葉表の病斑 (葉かび病)	
—	葉表の病斑 (すすかび病) ※初期は葉かび病と類似	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 発生は目立っていないが今後の発生に注意する。 両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ハウスの換気に努め、下葉等の摘葉による通気性の確保を行う。 予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬を中心とした予防的防除を定期的に行う。 発生後は、被害葉の除去と治療効果のある薬剤での防除を行う。 		
<予防的防除の一例> ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで トマト 4回以内、ミニトマト 2回以内 <発生確認後の防除の一例> (トマト・ミニトマト共通) ●シグナムWDG 2,000倍 収穫前日まで 2回以内		

作物名	トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
灰色かび病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期	がくから感染した 発病果実	葉の病斑とかび
—		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 発生は見られていないが、予防的な防除が必要である。 昼夜の温度差で、暖まりにくい果実が結露して発生しやすくなる。 夏秋作型のトマトやミニトマトでは、植え傷みで枯れた茎葉から発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 花房を覆う葉を摘葉し、日当たりと通気性を確保する。 加温作型では、日の出前の加温により急激な温度上昇を防ぐ。 植え痛みで枯れた茎葉は、晴天時に枯れた葉を取り除く。 葉数が確保されたら下葉を除去して通気性を確保する。 		
<防除の一例> 予防散布で効果の期待できる剤 ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで トマト(直径3cm以下を除く) : 4回以内、ミニトマト : 2回以内 発生が見られている場合に使用する剤 ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内		





作物名	りんご	
病虫害 生理障害名		
黒星病	被害葉 (葉の裏)	被害葉 (葉の表)
発生状況		
発生に注意		
発生時期	6月上旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 葉や果実が発生し、平均気温15～20℃で多雨のときに多発する。 葉では、落花後頃から緑褐色または黒緑色の円形の病斑を生じる。症状が進むと、写真右のように複数の病斑ができ、葉が波打つ。 果実では、はじめ、数mmのすす状の斑点が見られる。発生から日数が経つと病斑部の組織はコルク化する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 被害葉は集めて処分する。 落花後は10日間隔を目安として薬剤散布する。 曇雨天が続く場合には、防除間隔を短くする。 DMⅠ剤、QoⅠ剤の耐性菌が確認されているので、薬剤選択については、普及センター、JAまで相談すること。 		

作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名		
菌核病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期	茎葉での発生 発病部位から 上が萎れる	
—		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 例年、6月上中旬から7月上旬にかけてと、盆以降に発生が見られる。 前年に形成された菌核が土壤中で越冬し、翌年子のう盤を形成して発生源となる。 20℃以下の多湿条件で発生しやすく、昼夜の温度差により結露した水により分枝基部や果実が長時間濡れていることで助長される。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多湿が発生の原因となるので、ハウス内の換気に努める。 曇天や低温が予想される場合は、灰色かび病と合わせて予防的に薬剤防除を行う。 <p><防除の一例>菌核病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロプラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※ ●ロプラールくん煙剤 100g/300~400㎡ (床150~200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内 <p><防除の一例>灰色かび病の登録薬剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●スミレックスくん煙顆粒 6g/100㎡ 収穫前日まで 5回以内 		

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病虫害生理障害名		
アブラムシ類		
発生状況		
微~少発生		
発生時期	葉表の寄生状況 葉裏の寄生状況	
5月下旬~	モモアカアブラムシ (R3/5/31 なんばん)	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> モモアカアブラムシの発生が見られている。 モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多発すると防除が困難になるので、生長点付近をよく観察し、初発を見逃さないよう努める。 生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。 <p><防除の一例>カブリダニ類の導入時にも使用可能</p> <p>ピーマン</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ウララDF 2,000~4,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>ししとう・なんばん</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内 		

作物名	すいか・メロン	
病虫害生理障害名		
菌核病		
発生状況	菌核病菌が検出された すいかの葉の症状(下)	
少発生		
発生時期		
5月下旬~		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび(菌糸)を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。 すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 着果期前より予防防除を実施する。 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●スミレックス水和剤 すいか 1,000~2,000倍 収穫7日前まで 5回以内 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 <p>※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がなく使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カンタスドライフロアブル すいか・メロン：1,000~1,500倍 収穫前日まで 3回以内 		

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名		
キスジノミハムシ		
発生状況		
少発生		
発生時期	キスジノミハムシ成虫 (体長2~3mm)	
5月下旬~		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫は葉、幼虫は根の表皮を食害する。 気温の上昇に伴い、5月下旬から成虫の発生が見られる R3年は昨年より10日程度発生が早いので注意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ●成虫期間：1~4ヵ月 ●卵期間：5~7日 ●幼虫期間：10~20日 ●蛹期間：3~15日 </div>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 成虫の多発時は防除効果が劣るため、ほ場をよく観察し、発生初期防除に努める。 土壌施用剤は、土壌水分が極端に低下すると効果が劣るため、かん水管理に留意する。 ハウス内外の雑草や残さを適切に処分し、発生密度を高めないようにする。 <p><防除の一例></p> <p>こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> ●フォース粒剤 4kg/10a は種時全面土壌混和 1回 <p>チンゲンサイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スタークル粒剤 6kg/10a 定植時土壌混和 1回 <p>チンゲンサイ・ターサイ・みずな・こまつな</p> <ul style="list-style-type: none"> ●モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 収穫7日前まで1回 		

作物名	あぶらな科野菜全般		作物名	あぶらな科野菜など葉菜類全般	
病虫害 生理障害名	コナガ成虫		病虫害 生理障害名	ウスカワマイマイ	
コナガ			ナメクジ類 カタツムリ類		
発生状況			発生状況		
少発生	コナガ幼虫		中発生	チャコウラナメクジ	
発生時期	幼虫による葉の被害		発生時期		
5月下旬～			4月中旬～		
発生の状況・要因			発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。 比布町では4月12日（平年比7日早）に成虫の初発が確認された。 5月下旬より幼虫の発生が見られているため、今後も注意が必要である。 			<ul style="list-style-type: none"> ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。 葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。 雨天時や夜間は活発に活動する。 5月中下旬の多雨の影響で発生が増加しているため、今後も注意が必要である。 		
対 策			対 策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。 品目により薬剤の登録内容が異なるので、ラベルを確認してから使用する。 シアミド系（プレバソフフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 			<ul style="list-style-type: none"> 常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。 スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。 <p><防除の一例> ●スラゴ 1～5g/m² (3.3～16.5g/坪) 発生時</p>		

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和3年5月27日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□
【食品安全編】
—作業者の衛生管理—

- 作業者の身体を清潔に保つため、作業を始める前やトイレの後など、必要なときに手洗いを行いましょう。
- 清潔な作業着や手袋などを着用しましょう。
- ほ場や施設から通える場所に手洗い設備やトイレを確保しましょう。手洗いに必要な石けんや清潔な手拭き、必要に応じて消毒剤を用意しましょう。